

「日本全国 唄 仲間」

博多屋・本店

第11章



プログラム最後の、主催者のオンステージ20分が始まった、と同時に舞台下手から楽屋につながる通路では今日一日の出演者に準備されたドリンク類や待機椅子の片付けから楽屋の掃除、壁に貼られた進行表や各控え室の案内を外し、正面フロントまでの整頓をしながら終演後の来場者を見送る準備に入る。ときはきと手際よく、揃いの半被で何十人かが動き回る。そのひとりひとりが誰からの指示でもなく、ただ黙々と動いている、僕にはそう見えたのです。

「博多屋本店」センター、キョーコこと高木京子さんの歌謡教室チャリティ発表会が今年も福岡西市民センターに800名を悠々呑み込んで無事終わろうとしているのです。30頁からなるプログラムの3分の2を協賛とお祝いで埋め尽くし、友情出演に地域の慈善団や歌謡教室等の代表コーナーをつくる以外全て、自らの生徒さんだけの文字とおりの発表会なのです。

京子さんを心から信頼する、生徒さん達だけで運営される実行委員会の日々の地道な地域とお付き合いが、協賛のページを創り上げ、本番前日からの細やかな準備と気配りが、たった1教室の催しとしては福岡で他に例を見ない大きなコンサートに仕上げたのです、京子さんと実行委員の皆さんとの深い絆に触れ僕は、とても嬉しくそして、はっきりと思えるのです。

また来年もここで、第18回目の幕が上がることでしよう…と。



YOKOHAMA屋

第4章



桜前線も横浜を通り過ぎ、アベノミクスへの期待が更に高まる(笑)今日この頃、YOKOHAMA屋の活動は定期ライブは勿論、4月5月と路上ライブや大きなイベントが目白押しです。それに向けて新しい曲をお届けするために私達も憧れのAKBのように各チーム毎に自分達の仕事の後それぞれの拠点に集まってレッスンを重ねております。残業で夜9時過ぎに何時間もかけて駆けつけるメンバー、チームを沢山掛け持ちして結局ほぼ毎日レッスンしているメンバー、やっとハモリパートを覚えたところで残念、身長のバランスでチェンジになったメンバーもありました。

しかし、レッスンで最も苦労しているのは意外や皆が笑顔で歌うところ…。

剣になり顔が怖いです。笑顔で歌う事の難しさを思い知らされています(生まれつきじゃないですよ笑)。また、歳のせい(笑)キャンペーンを控えて予定していたメンバーが熱に倒れたり、声が出なくなったりのハプニングや、連絡網も22名となると最後まで正しく伝わる事が滅多にない(笑)というようなあらゆる困難を乗り越えて、あちこちで春のYOKOHAMA屋旋風を巻き起こして行きたいと思えます。今月も応援宜しくお願い申し上げます。

スケジュールはYOKOHAMA屋ホームページで検索お願いします！

